

鶏コクシジウム症等の発生を認めた大規模肉用鶏農場の衛生対策

中丹家畜保健衛生所

○上羽智恵美 上村浩一

【はじめに】ワクチンの不適切投与によるコクシジウム症や温度・衛生管理失宜に起因する大腸菌症、ブドウ球菌症の発生を認めた管内の大規模肉用鶏農場の衛生管理対策に取り組んだ。【経過】出荷10日前の約40日齢でコクシジウム症による下痢や死亡例が発生、ワクチンの均一な投与ができていなかったことが原因として、コクシジウム対策を実施。対策を行う中で、発育不良鶏が多い鶏群や飼料切り替え後に死亡羽数増加を認め、死亡鶏の病理解剖より大腸菌やブドウ球菌の関与が判明した。【対策】①コクシジウムワクチン投与改善とワクチン効果の確認。②オールアウト後の鶏舎消毒方法の改善及び農場の消毒。③衛生的なサービスルームの管理。④経験の浅い従業員に対する鶏の病気や消毒方法についての勉強会開催。⑤管理責任者の一元化による管理体制の見直しを行った。【結果】ワクチン投与改善後の糞便検査で、効果を確認。鶏舎への生石灰塗布や農場内の定期的な消毒、踏み込み消毒槽を毎日交換、死鶏をサービスルームに直接置かないなど、従業員の衛生管理意識の向上が見られた。また、管理情報を農場長に一元化することで温度管理等の失宜が減少し、育雛率は指導当初の93.3%から96.5%に向上した。しかし、従業員に衛生意識の差があるため、今後も指導を継続する。